

## 1. DX への取り組み

デジタル技術は急速に進化しています。この変革は我々の業界やビジネス環境に大きな影響を及ぼしており、それに適応しなければ自社の存続が危うくなります。

デジタル技術の変化に適応しない企業は、競争力を失い、市場での存在感を失う可能性が高まります。競争が激化し、顧客の期待が高まる中で、デジタル技術は自社の存続に直結する要因となっています。

我々の理念は、常にお客様に価値を提供し、社会に貢献することです。デジタル技術はこれを実現するための新たな手段として位置づけています。我々はお客様に焦点を当て、イノベーションを重視し、社員のスキル向上（人材育成）や持続可能なビジネスモデルの構築を図ります。積極的に DX を進め、持続的な成功と自社の存続を確保していきます。

2024 年 1 月 23 日

株式会社イチーナ

代表取締役 市場 浩

## 2. DX 推進の方向性

### 1. デジタル技術の取得と業務プロセスの改善

これまで反復的に行っていた業務にかかる時間を削減し、デジタル技術を活用して新たなビジネス機会を生み出します。それらの知識とスキルを蓄積し、組織内で共有することで組織内の DX 化を促進します。

### 2. スキルの管理と人材育成の強化

デジタル技術の取得状況を可視化し、その情報を人材育成や採用に活用します。

## 3. DX 推進の戦略

### 1. デジタル技術の獲得と業務プロセスの最適化

AI や RPA 等のデジタル技術を習得し、自社の業務プロセスを改善します。また、DX に関する知識とノウハウを蓄積し、顧客のニーズや課題を把握し、デジタル技術を駆使して新たなビジネスを展開します。

### 2. スキルの管理と人材育成の強化

DX に関する社員のスキル習得状況をデータ化し、可視化することで組織全体の状況を把握します。これらの情報を将来の人材育成と採用に活かし、組織のスキルを強化していきます。

## 3. DX 推進体制

## 1. ツール導入

業務効率化のため RPA・ChatGPT を導入します。

## 2. DX 人材育成

- ・ DX 促進のため DX 部門を設置し、担当者を選任します。
- ・ 蓄積したスキルやノウハウを社内共有する定例会議を実施します。
- ・ 蓄積された情報をもとに人材育成・採用に活用

## 4. DX 推進のための環境整備

### 1. 業務プロセスの効率化推進

業務プロセスの効率化ツールを活用し、スキルとノウハウの蓄積を奨励し、情報を効果的に管理するための情報管理ツールを採用します。

### 2. 柔軟なインフラ整備

社会的状況の変化に対応するため、クラウドサービスを活用してリモートで柔軟に作業可能な環境を整備します。

### 3. セキュリティとデータの保護

データのセキュリティを確保し、データへのアクセスを容易にするために、オンラインストレージを使用してデータのバックアップを実施します

## 5. DX 推進の目標指標

1. 業務プロセスの改善プロジェクト数
2. 定期会議で共有されたノウハウの数

## 6. サイバーセキュリティ対策

### 1. サイバーセキュリティポリシーの確立

企業全体でのサイバーセキュリティアプローチを明確に示すポリシーを策定し、全従業員に浸透させます。

### 2. セキュリティ対策の実施と評価

セキュリティ対策の実施状況を定期的に評価し、システムの脆弱性を排除します。

### 3. 従業員のセキュリティ教育の強化

従業員に向けたサイバーセキュリティ教育とトレーニングを充実させ、セキュリティ意識を向上させます。

### 4. セキュリティ対応体制の構築

セキュリティ問題が発生した場合の対応体制を整備し、迅速な対応と報告を確保します。

### 5. 定期的なサイバーセキュリティの見直し

サイバーセキュリティ対策を定期的に再評価し、脅威に対応するための対策を実施します。